



平成 19 年 11 月 9 日

各 位

株 式 会 社 ウ ィ ザ ス
代 表 取 締 役 社 長 堀 川 一 晃
(コード番号 9696)
(問合せ先)
常務取締役統括支援本部長
井 尻 芳 晃
T E L . 06 (6264) 4202

平成 20 年 3 月期中間期 (連結・個別) 業績予想の修正について

平成 20 年 3 月期中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)の業績予想につきまして、平成 19 年 5 月 18 日付「平成 19 年 3 月期決算短信」にて発表しました業績予想を下記の通り修正いたします。

1. 連結業績予想

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	5,735	△539	△607	△884
今回修正 (B)	5,645	△197	△302	△657
増減額 (B - A)	△90	342	304	227
増減率 (%)	△1.6	—	—	—

2. 単体業績予想

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	5,262	△452	△504	△775
今回修正 (B)	5,114	△190	△304	△657
増減額 (B - A)	△147	261	200	118
増減率 (%)	△2.8	—	—	—

3. 修正の理由

当中間連結会計期間における営業損失、経常損失、当期純損失が、当初計画に比して圧縮になる見込みとなりましたので、業績予想を修正いたします。

連結売上高につきましては、学習塾事業部門、高認・サポート校事業部門ともに期初における計画より若干下回りましたが、利益面におきましては、当中間連結会計期間において、学習塾事業部門で新規校の開校を 10 校予定しておりましたが、1 校にとどまり、その開校に係る諸費用の発生がなかったこと、また、高認・サポート校・通信制高校事業部門では、新規の教材開発が下期にずれ込んだこと、加えて、会社全体の主要経費である広告宣伝費の効率的執行や、その他経費執行の抑制も相まって連結営業損失、経常損失、当期

純損失は改善いたしました。

当社は、例年、事業の構造上、入学者の累積増加による生徒数の増加が下期に集中するため、下期の収益確保がより重要な業績要因となっていることから、効率的な経費執行はもとより、当初計画を達成すべく生徒募集活動の強化、独立校舎化の推進、ウィザスナビ高校の新規開校等に注力してまいります。それに伴う諸経費の発生などが見込まれるため、売上・利益ともに前回予想値は変更しておりません。

【ご参考】

平成 20 年 3 月期 通期業績予想(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 3 1 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 3 月期 業績予想 (連結)	14,013	1,415	1,256	68
平成 20 年 3 月期 業績予想 (単体)	12,614	1,295	1,165	24

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。